

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 編集後記  |
| Sub Title        |   |
| Author           |   |
| Publisher        | 三田哲學會   |
| Publication year | 1986  |
| Jtitle           | 哲學 No.83 (1986. 11) ,p.317- 317   |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            |   |
| Genre            |   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000083-0317">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000083-0317</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田や日吉の界隈には古書店が少ないといわれる。古書店はともかくとしても、画廊や美術商の少なさが以前から気になっていたが、最近はおさらその感がつよい。実際、古い建物が姿を消し、ポスト・モダニズム風のビルが出現するたびに、三田や高輪、飯倉の町からそうした空間が消えてゆく。画廊や美術館はいうまでもなく近代（モデルヌ）の産物だが、現今の東京では、何よりもその空間のもつ「静かさ」が他に求めえない意義をもつように感じられる。実在する物としての作品と、物を取りかこむ空間とが生み出す「静かさ」は、すでにわれわ

れの日常にも、都市にも、見出しがたい。ポストの時代ゆえであろうか。三田の山には幸いにも第二研究室棟の国際センター隣りに、そうした静かさにみちた野ロームがまだ存在している。ふだん入室できないのを残念に思うのは私だけではないだろう。

今号は多くの会員の方々にご投稿いただき、最近にない量感ある一冊となった。均斉のとれた形姿が望ましいことはもちろんだが、研究活動に瘦身法は無縁なことと、ご寛恕をお願いしたい。ご寄稿に感謝し、今後とも多くの方々にご執筆を期待する次第である。

（前田富士男）